

京丹後市立図書館

2026年度

おすすめの本

中学年
3・4年生向き

『ことばコレクター』（ほるぷ出版）



ピーター・レイノルズ/作 なかがわ ちひろ/訳

ジェロームは「ことば」のコレクター。たくさん集めてスクラップしていたら、ある日転んで全部ぐちゃぐちゃに。でも、これ、案外おもしろいかもと思ったジェロームは…。『ことば』の持つ力をえがいた絵本。

『じかんをまもれなかったクマのはなし』（河出書房新社）



ジャン・リュック・フロマンタル/文 ジョエル・ジョリヴェ/絵
しみず れいな/訳

寝坊、遅刻、時間割を間違える…。トラブルだらけのクマがある日、時計のよみ方を教わった。驚きの結末とは？ 笑いの渦に巻き込みながら、人生の意味を教えてくれる絵本。

『トットちゃんの15つぶのだいず』（講談社）



黒柳 徹子/原案 柏葉 幸子/文 松本 春野/絵

トットちゃんが小学2年生のときに、日本は戦争をはじめました。ある日、とうとう、1日の食べものがだいず15つぶだけになってしまいます。それも、夜までなんつぶか、残しておかなければならないのです…。

『しんかい6500 深海のひみつをさがれ!』（くもん出版）



山本 省三/作 友永 たろ/絵

深い深い海中や海底を探り、色々な謎を解きあかすためにつくられた、世界トップクラスの有人潜水調査船「しんかい6500」。深海にもぐるための工夫とはどのようなものか、どうやって深海を調査するのかを紹介する。

『ひき石と24丁のとうふ』（アリス館）



大西 暢夫/著

岩手県二戸市の山の中で、豆腐を作り続ける90歳のミナさん。一晩、水にふやかした大豆を、ミナさんが「ひき石」と呼ぶ石臼で6時間かけて挽いて、24丁の豆腐を作り…。長年の取材から生まれた写真絵本。

『ひみつだけど、話します』（あかね書房）



堀川 理万子/作・絵

電車好きの足立くん、いつもごきげんな小川さん、生きものにくわしいうっちゃん、学校に行かない上田さん。小学3年生の同級生は、それぞれ小さな秘密を持っている…。ある町の小学生たちの、ささやかな日常の中にある物語。

『ケロニャンヌ』（講談社）



安田 夏菜/作 しんや ゆうこ/絵

ケロポンも、マリニャンヌも、ジュミョウになって、カイトくんの前からいなくなってしまった。悲しくて、悲しくて、学校をお休みしたその日、カイト君のベッドのあし元に、へんな動物が「ふせ」をされていて…。

『ぼくちのねこのはなし』（くもん出版）



いとう みく/作 祖敷 大輔/絵

ねこのこは16歳。ぼくが生まれる前から、うちの家族だった。最近様子がおかしくて、病院につれていったら、「治らない病気です」って言われた。こは、死んじゃうのかな。そんな日、ずっと来なければいいのに…。

『リレー選手になりたい』（文研出版）



新井 けいこ/作 宮尾 和孝/絵

クラスの選考会で運動会のリレー選手に選ばれた流星。学年一足が速いが、けがで選考会を欠場した勇斗。リレー選手を選考会の結果で選ぶか、経験と実績で選ぶか、クラスで話し合うが決まらず、リレー選手になりたい2人は…。

『ぼくの犬スーザン』（あすなろ書房）



ニコラ・デイビス/文 千葉 茂樹/訳 垂石 眞子/絵

ジェイクは、苦手なことが多くて、暮らしにくさを感じている少年。そんなジェイクが、偶然出会った犬とのふれあいをきっかけに成長していく姿を描いた、心あたたまる物語。

無断での複写・転載を禁止します。本の内容紹介はTRC MARCより転載しています。

ほかにもあるよ おすすめの本

『だれのせい？』

ダビデ・カリ/作 レジーナ・ルック・トゥーンペレ/絵
ヤマザキマリ/訳
(green seed books)

『もうじきたべられるぼく』

はせがわ ゆうじ/作
(中央公論新社)

『こちら、沖縄美ら海水族館動物健康管理室。』

世界一の治療をチームで目指す！

岩貞 るみこ/文 サタケ シュンスケ/イラスト
(講談社)



貸し出し中の本は予約もできます。くわしくは職員におたずねください